

特集「インタラクションの理解および基盤・応用技術」の編集にあたって

市村 哲^{1,a)}

1997年より毎年開催されているシンポジウム「インタラクション」は今年で15回目を迎えた。査読によって厳選された講演発表と、数多くの魅力的なインタラクティブ発表（デモ発表）によって構成され、ユーザインタフェース、CSCW、可視化、入出力デバイス、仮想/拡張現実、ユビキタスコンピューティング、ソフトウェア工学といった計算機科学、さらには認知科学、社会科学、文化人類学、メディア論、芸術といった人文科学まで広がる分野の研究者および実務者に対し、インタラクションに関わる最新の技術や情報を交換し議論する場を提供してきた。本シンポジウムの参加登録者は762名に達し、加えて会場となった科学未来館の来館者にもインタラクティブセッションを解放した。

インタラクションに関連する研究は進歩が早いことから、タイムリーな論文文化の機会を提供することが非常に重要である。そこでインタラクション2011の開催時期にあわせて、本シンポジウムにおける発表論文および関連研究を広く集め、本論文誌特集号にまとめることで、この分野の研究成果を公表する機会とした。インタラクション2011プログラム委員会においてベストペーパーに選出された2件の発表は推薦論文として選ばれ、著者に投稿を促し、通常の査読審査を経て、当特集号に採録することができた。なお、2011年3月11日に発生した東日本大地震により、3月11日の一部の発表および3月12日のすべての発表が中止となってしまったが、すべての発表はプロシーディングおよびWebページに掲載済みであり、ベストペーパー賞およびプログラム委員会が推薦するインタラクティブ発表賞の選考対象となったことから、本シンポジウムにおいて正式に発表が行われたと取り扱うこととした。

本論文誌特集号の編集委員にはインタラクション2011のプログラム委員、論文誌編集委員を中心として、本分野に造詣の深い者が就任し、投稿された44件のうちから特に優れた18件の論文を採録した。当初の狙い通り、インタラクション2011で発表された質の高い研究が多く投稿

されたほか、シンポジウム発表論文以外からも広く集めることができた。これは、当分野が多様な専門性を有する研究によって構成されている特色を顕著に示す特集号となったことを意味している。

最後に、本特集号の編集にあたって、あらゆる面からご尽力いただいた宮下芳明幹事、鈴木健嗣幹事をはじめとする特集号編集委員会委員および査読者各位に深く感謝申し上げます。

「インタラクションの理解および基盤・応用技術」特集号編集委員会

- 編集長
市村 哲（東京工科大学）
- 幹事
宮下芳明（明治大学）、鈴木健嗣（筑波大学）
- 編集委員
秋田純一（金沢大学）、綾塚祐二（トヨタIT開発センター）、井上智雄（筑波大学）、江渡浩一郎（産総研）、岡本昌之（東芝）、小野哲雄（北海道大学）、加藤直樹（東京学芸大学）、河野恭之（関西学院大学）、北村喜文（東北大学）、後藤真孝（産総研）、志筑文太郎（筑波大学）、杉本雅則（東京大学）、苗村 健（東京大学）、中西英之（大阪大学）、福本雅朗（NTTドコモ）、藤波香織（東京農工大学）、福地健太郎（明治大学）、細部博史（情報学研）、三浦元喜（九州工科大学）、水口 充（京都産業大学）、迎山和司（はこだて未来大学）

¹ 東京工科大学
Tokyo University of Technology, Hachioji, Tokyo 192-0982
Japan

^{a)} ichimura@cs.teu.ac.jp